

自治協ニュース

第0207号
発行者
八本松住民
自治協議会
R02. 12. 20

八本松自治協
環境対策委員会

環境・映画鑑賞会 感動のドキュメンタリー「人生フルーツ」



サヤ サヤ... (風)
枯れ葉が落ちれば土が肥える。土が肥えれば果実が実る。
コツコツ。ゆっくり。 人生フルーツ

風と雑木林と建築家夫婦の物語

風が吹けば枯れ葉が落ちる。枯れ葉が落ちれば...

11月15日（日）自治協環境対策委員会（委員長 小池恵美子）は、地域のごみ減量・リサイクル推進のため、八本松地域センターで文化映画「人生フルーツ」（第91回文化映画第1位）の観賞会（参加者53人）を開催した。



彼女は僕にとって最高のガールフレンド



おいしいと言ってもらえれば本望ですわ



晩年になっていい顔になった



絶対に作物は誰でも出来るから
もっといい土にして孫につなげたい

この映画は、愛知県の新ニュータウンに住む老夫婦の物語。建築家の夫（津端修一さん90歳）が自ら建てた一軒家は、雑

木林に囲まれ緑豊かなたたずまい。夫人（英子さん87歳）は、そこで育った野菜や果物で食事を作り、編み物や機織りもこなし、夫を支える。つつましくも豊かな暮らしが描かれている。

修一さんは、戦後の住宅再建に貢献した日本住宅公団のエンジニアだった。当時、伊勢湾台風で壊滅した地にニュータウンを作る計画を任せられ、「街の中に雑木林を残し風の通りを作る夢のプラン」を企画

した。しかし、経済中心の社会に認められず建築界から身を引いた修一さんは、夫人とともにそのニュータウンの一角に一軒家をたて、一生の仕事として、小さくても、もう一度里山を回復しようと50年の歳月をかけ、できることからコツコツと自然豊かな宝石箱のような家の暮しを築き上げた。

英子さんは、「晩年になっておとうさんはいい顔になった」、「愛していると言えないけれど、なるべく、おとうさんにいようにしてあげたい」、「おとうさんが良くなれば、回り回って私も良くなる」と回想している。夫人のこの言葉は、映画の主題「風が吹けば枯れ葉が落ちる。枯れ葉が落ちれば土が肥える。土が肥えれば果実が実る。コツコツ。ゆっくり。人生フルーツ」を表し、「自分を見失わず人間的な暮らしとは何か」を教示する感動のドキュメンタリー映画だった。

参加者に感想を聴くと「あんな夫婦になりたい」、「山を残す大切さがわかった」、「自分でも地域でできることを探したい」、「次もやってほしい」等と大きな反響があった。

小池委員長も「やっただん妻がありがとうございました」と感想を述べている。

（津端修一さんは、新しい広島大学・賀茂学園都市の計画設計に携わるため、広島大学総合学部教授として赴任していた）

コロナ禍での
防災訓練

三密回避 6ゾーンに分散し訓練

八本松みなみ&
八本松南4・5
地区自主防災会

子ども達も参加 防災マップ・防災グッズの展示説明も



①水消火器による初期消火訓練



防災クイズ大会（子どもの部）



②胸骨圧迫による心肺蘇生法訓練



③担架の作成と搬送訓練



④車椅子を用いた安全な搬送訓練



⑤簡易トイレの作成訓練



⑥簡易ベッドの作成訓練（安全テスト）

特に、今年はコロナ感染症防止のため、受付では参加者の体温測定と手指消毒を徹底。終わった方にはチェックシールを貼って入場していただいた。

また、密接を避けるためバケツリレーや人工呼吸等の訓練を中止。グラウンドには6つの訓練ゾーンと展示コーナーを配置し、参加者が分散して訓練等できるようにした。

訓練は次の6つのゾーンで、従来から実施している①水消火器による初期消火訓練、②人形を用いた胸骨圧迫による心肺蘇生法訓練、③竹と毛布を用いた担架の作成と搬送訓練、④車椅子を用いた体の不自由な方の安全な搬送訓練に加え、本年度は新たに⑤段ボールによる簡易トイレの作成訓練と、⑥段ボールによる簡易ベッドの作成訓練が、消

防署西分署、市社会福祉協議会の担当者との防災会の委員の指導で同時に行われた。また、並行して防災関連展示コーナーでは、この地域の防災マップ、自主防災会と自治協防災委員会が所持している主な防災資材の展示説明が行われた。

最後に、恒例となっている防災クイズ大会は、子どもの参加が多いことから子どもと大人別々に実施。特に、子ども達の正解率の高さには皆さん驚いていた。

「訓練が分散されていたので体験機会が多く満足」、「いろいろ

八本松みなみ地区自主防災会（会長横井國興）と八本松南4・5地区防災会（会長上野崇将）は12月6日（日）に八本松市民グラウンドで消防署西分署、市社会福祉協議会の協力を得て、合同で総合防災訓練を実施した。

消防署西分署から「皆さん非常に熱心で質問も多く積極的に体験され、大変心強く思います」、市社会福祉協議会からは「親子で参加されている方が多く、地域のことで、防災のことを親子で考えたいいきっかけになったものと思います」と述べられた。

なお、この日の参加者は118人でそのうち22人が子ども達だった。

「訓練が分散されていたので体験機会が多かった」、「大人も子どもも参加できてよかった」等の意見が出されていた。

防災マップ、防災資材の展示説明